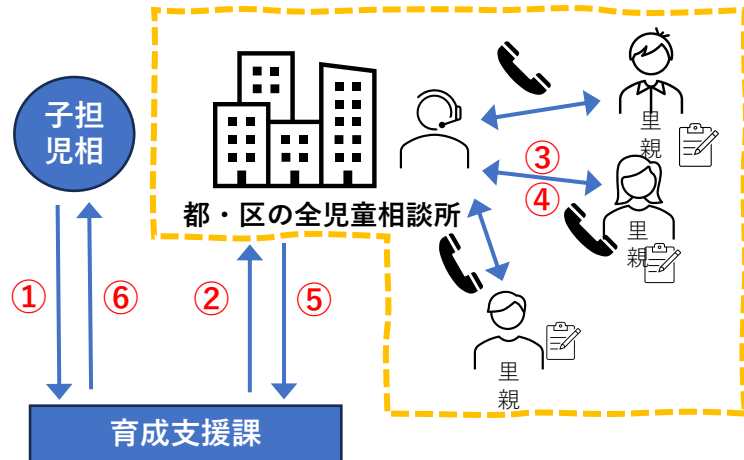


養子縁組マッチングの流れ（現状）



- ① 児童相談所（子担当）は、養子縁組候補児童として決定した児童の情報を育成支援課に送付
- ② 育成支援課は、区児相を含む都内全ての候補児童の情報を集約、都内全ての児童相談所へ共有
- ③ 各児童相談所（親担当）は、**養子縁組里親として登録がされている全ての里親へ、候補児童を電話で紹介**
- ④ **里親は、紹介を受けた児童の養親となることを希望する場合は、希望する旨の意思表示を、児童相談所に電話で連絡**
- ⑤ 各児童相談所（親担当）は、希望する里親の名簿を育成支援課に提出
- ⑥ 子担当の児童相談所は、育成支援課を経由して集約された希望する里親の名簿の中から候補家庭を決定、交流等に向けた調整を開始

課題

○ 里親への児童紹介は全て電話連絡

- ・ 共働きで夜間しか連絡がつかない家庭も多く、時間外での対応が恒常化
- ・ 不在での折り返し、里父母間で情報を共有の上での返答など、1回の紹介で、何往復もの電話のやり取りが生じる
- ・ 里親側の意向に沿わないケースも、全件概要説明を行っており、1回の通話にも時間を要する
- ・ 里親側の視点でも、電話の時間調整やメモの手間、一方が聞いた内容の里父母間での共有の必要などの負担が存在

養子縁組里親とのマッチングのD Xについて

養子縁組マッチングのD X

- 里親への児童紹介のプロセスの一部をデジタル化し、業務の省力化及び、里親の利便性の向上を図る。
- 養子縁組候補児童の基礎情報を一元化し、里親候補者が閲覧・関心表明できる情報共有プラットフォームを構築
 - ・ 養子縁組候補児童が登録されると、登録済の里親にメールで通知
 - ・ 里親は、当該プラットフォームにて児童の情報を確認
 - ・ 児童相談所は、関心を示した里親を把握、電話による詳細の説明・調整に進む

期待される効果

- 事前に里親の意向が確認できるため、効率的な連絡調整が図れる。
- 基礎情報が伝わっている状態での説明となるため、要点に注力した説明ができる。
- 架電回数や通話時間の省力化が図れることで、より丁寧なマッチング等が可能となる。

スケジュール

